様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２４ 日現在

機関番号：３０１２６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ１１１８８

研究課題名（和文）フォトボイスを用いた高齢者をエンパワメントする介護予防プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a care prevention program to empower the elderly using photovoice.

研究代表者
服部　ユカリ（Hattori, Yukari）

札幌保健医療大学・保健医療学部・教授

研究者番号：００２７２８９９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、フォトボイスを用いて地域在住高齢者をエンパワメントする介護予防プログラムを開発することを目的とした。先行研究および研究者らがこれまで実施してきた介護予防教室の成果を基にフォトボイスを用いた介護予防プログラムを作成し、地域在住高齢者に実施したところ、視野の広がりや意欲が示され、エンパワメントされる可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　介護予防プログラムの本来の目的は、心身機能の改善だけではなく、日常生活の活動を高め、参加を促し、一人ひとりの生きがいや自己実現を支援し、生活の質の向上を目指すことである。今回開発したプログラムは、高齢者自ら、自身に必要なものに気づき、ふさわしい活動を見出し、主体的な自己決定によって継続的に参加し、生活機能を高めることができるようになることを支援する可能性があり、介護予防を推進するプログラムの選択肢を広げる以外がある。

研究成果の概要（英文）：　The purpose of this study was to develop a care prevention program using Photovoice to empower elderly people living in the community. Based on previous studies and the results of care prevention classes conducted by the researchers,
a care prevention program using Photovoice was developed and implemented to elderly people living in the community, and the results indicated that the program could empower them by broadening their perspectives and motivating them.

研究分野：高齢者看護学

キーワード：介護予防　フォトボイス

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

介護予防は、単に心身機能の改善だけを目指すものではなく、日常生活の活動を高め、家庭や社会への参加を促すことにより一人ひとりの生きがいや自己実現を支援して、生活の質の向上を目指すものである(厚労省)。高齢者が住み慣れた地域で、できるだけ自立して、自分らしく生活していくためには、内発的な動機づけにより潜在化しているパワーを発揮し、主体的・継続的に活動に参加できるような支援が重要であり、高齢者をエンパワメントする介護予防プログラムが必要である。

介護予防に関する先行研究では、心身機能を高めるような運動訓練(丸谷,Osteoporosis Japan,2015)や口腔機能改善(江尻,介護福祉・健康づくり,2016)のためのプログラムの評価に関する内容は多数報告されているが、高齢者のエンパワメントを促す視点に立った介護予防プログラムの実施や評価(井出ら,文化看護学会誌,2009)に関する報告はごく少数であり、効果的にエンパワメントを促す手法を用いた転用可能なプログラムとその評価についての報告はみあたらない。

エンパワメントを促す手法として、写真とそれについての自身の語りをとおして問題解決を促すフォトボイスは有用である。フォトボイスは、Wang が公衆衛生分野の研究手法として開発（Wang＆Burris, Health Education Quarterly .1994,1997）し、写真を通して個人・地域の関心事、課題、強みを記録し映し出し、考察する機会を提供し、自己成長を促す手法である。

２．研究の目的

本研究では、フォトボイスおよびエンパワメントの先行研究を分析し、高齢者に適応可能であり、かつ介護予防に適したフォトボイスの手法を用いて、高齢者をエンパワメントする介護予防プログラムを開発することを目的とした。

３．研究の方法

フォトボイスを用いて高齢者をエンパワメントする介護予防プログラムを開発するための基礎的な検討を行った。フォトボイスに関する国内外の文献の内容を分析し、フォトボイスの手法と実施上の要点、留意事項を確認した。また、エンパワメントに関する国内外の文献を基に、高齢者をエンパワメントする要素、エンパワメントプロセスについて検討した。さらに国内の介護予防に関する報告・研究のうち、エンパワメントの要素が取り入れられている事例について分析した。

これまで我々が写真を取り入れて実施していた介護予防教室の効果と課題について分析し、ファシリテートの方法、参加者の主体性を高める方法、参加者へのフィードバック方法等に関する改善点を抽出した。

これらと先行研究の分析を基に、フォトボイスの手法を取り入れた介護予防プログラム(ver1)を作成した。このプログラムの効果の概要を明らかにするため、I 市の要介護認定を受けていない 65 歳以上の高齢者に対して介護予防プログラム(ver1)を実施し、受講後に効果に関する参加者の認識を質的統合法（KJ 法）により分析した。また、コロナ禍でも実施できる 3 回からなる介護予防プログラム(ver1)を作成し実施した。

４．研究成果

介護予防プログラム(ver1）は、7 回から構成され、フォトボイスのルールを伝え、テーマに沿った写真を撮影して持参し、グループで対話するものである。

介護予防プログラム(ver1）の参加者は、27 名女性 14 名、男性 13 名でほぼ同数、後期高齢者が 18 名 66.7%であった。介護予防プログラム(ver1)への平均参加率は、89.3%であり、終了後の満足度は全員が、「非常に満足・満足」と回答した。

自記式質問紙によると、参加者が認識しているプログラムによる変化として選択されたのは(複数回答)、「生活に張りができた」13 人 56.5%、「生活の課題の気づき」11 人 47.8%、「気持ちが明るくなった」および「生活の良い点の気づき」が、ともに 9 人 39.1%の順であった。また、自由記載を質的統合法（KJ 法）による分析の結果、次のことが示された。参加者には、「出かけやすい期間・場所と興味を引くテーマ設定」という「参加の動機」があり、参加した結果、「プログラムの良い点」として、「テーマ設定から撮影後のグループワークまでの一貫した学習プロセス」が挙げられ、同時に「新規プログラムの効果」として「参加者全員での行動場面提供と思考・視野の広がり」を実感していた。その一方で「プログラムの課題」として、「時間の延長と音楽を取り入れた多彩な内容での継続希望」があった。結果として「新しい友人からの刺激で脳が活性化」するという「プログラムの効果」があり、さらに「プログラムへの参加継続と学習内容の活用」という「学びを活かした生活を続ける意欲」が示された。

COVID19 の影響により感染拡大リスクを低減するように期間･時間等を短縮し、グループワークを行わないようプログラムを修正し 3 回からなる介護予防プログラム(ver2)を作成した。効果を確認するために、これまでに我々主催の介護予防教室に参加経験のある男性 8 名、女性 14 名

の 22 名に介護予防プログラム(ver2)を実施した。フォトボイスの手法を用いて「コロナで困ったこと、コロナにめげず工夫していること」を語り合った。プログラム終了後アンケートでは全員が「プログラムに満足」と回答した。17 人が参加後の変化があったとし、具体的には「刺激になった」「他の人の発表に感心させられた」「ものの見方が変わった」「生活に工夫が見られるようになった」といった回答があり、短期間・短時間のプログラムであってもエンパワメントをもたらす可能性が示唆された。

本研究により、地域在住高齢者のエンパワメントを促進し介護予防に貢献するプログラムの選択肢の幅が広がった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 服部ユカリ、牧野志津、野中雅人、大坪智美、芳賀博
２．発表標題 フォトボイスを用いた介護予防プログラムの開発
３．学会等名 第15回応用老年学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 服部ユカリ、牧野志津、野中雅人、大坪智美
２．発表標題 介護予防教室にフォトボイスを導入した効果に関する研究ー参加者のFGIから
３．学会等名 第14回日本応用老年学会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	芳賀　博 (Haga Hiroshi) (00132902)	佐久大学・看護学部・客員教授 (33606)	
研究分担者	牧野　志津 (Makino Shizu) (30814503)	旭川医科大学・医学部・助教 (10107)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	野中　雅人 (Monaka Masato) (30835286)	旭川医科大学・医学部・准教授 (10107)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	大坪　智美 (Ootubo Tomomi)		
研究協力者	中田　真依 (Nakata Mai)		
研究協力者	中武　延 (Nakatake Nobu)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関